第47回 全国豊かな海づくり大会 ～幸極まる（さちきわ）ふくい大会～

福井県実行委員会

第1回総会

令和8年10月13日（火）

福井県国際交流会館 ３階 特別会議室

目次
第１回総会

＜議　題＞

第1号議案
・ 第47回全国豊かな海づくり大会基本構想（案）について【資料2】‥‥1

第2号議案
・ 第47回全国豊かな海づくり大会「開催地選定（案）」について【資料3】‥‥4

第3号議案
・ 令和8年度　事業計画および収支予算（案）について【資料4】‥‥8

資料２

第１号議案

第47回全国豊かな海づくり大会　基本構想（案）について

１　開催意義

（1）　福井県の特色

　福井県は、日本海側のほぼ中央に位置し、嶺北地域は、世界三大恐竜博物館の一つである福井県立恐竜博物館、禅の聖地として名高い大本山永平寺、日本海の荒波が作り出した絶景の東尋坊など、自然と歴史が調和した魅力あふれる観光地を有しています。嶺南地域は、古くから朝廷に食材を献上してきた「御食国（みけつくに）」の一つであり、鯖街道に代表される歴史的な食文化が今でも息づいており、寺社仏閣も多く、歴史文化、食、自然が連なる様子が「若狭路（わかさじ）」とも呼ばれています。令和6年には、北陸新幹線福井・敦賀が開業し、関東、信越、北陸からのアクセスが向上したことにより、交流人口が増加し、「ふくい新時代」を迎えています。

（2）　福井県の水産業

　福井県は、海岸段丘や海食による断崖が続く越前海岸と、若狭湾沿岸域の複雑な形状をしたリアス式海岸があり、海岸総延長距離は415kmに及びます。主要漁業である底曳網漁業と定置網では、ズワイガニ、アカガレイ、ブリ、サワラなどが水揚げされ、若狭湾の緩やかな大陸棚で行われる延縄漁業ではアカアマダイが漁獲されています。また、リアス式海岸の静穏な環境を活用した養殖業では、トラフグやマハタが生産されています。さらに、海女漁を含む潜水漁業、玄達瀬・松出シ瀬などの天然礁での一本釣り漁業など、多様な漁業が行われています。

　これらの水産物の中から「越前がに（ずわいがに）」、「若狭ふぐ（養殖トラフグ）」などのブランド魚に加え、厳しい基準をクリアした“極”ブランド「越前がに極」をはじめとしたプレミアムブランドも展開しています。なお、福井県が令和7年に策定した「地域とともにふくいの水産業のあしたに架ける基本計画」では、“極”ブランドを核として「ふくいの魚」まるごとブランド化を進めることとしています。

（3） 大会開催の意義

福井県では、昭和61年10月に小浜市において、皇太子同妃両殿下（現在の上皇上皇后両陛下）をお迎えして「第6回全国豊かな海づくり大会」を開催しました。大会を契機として、漁業関係者が一丸となり、海の自然を守り、栽培漁業を推進し、次世代に残す海づくりを推進してきました。しかしながら、40年余りが経過し、水産資源の減少や環境の変化など、水産業を取り巻く環境が大きく変化しています。

「全国豊かな海づくり大会」を再び福井県で開催することは、漁業 DX を活用した水産資源の保護や藻場造成など環境保全の重要性、産学官連携による増養殖の推進など、本県の先進的な取り組みや福井の海の幸の魅力を県内外に広く周知する絶好の機会となります。また、大会や関連イベントを通じて、ふるさとの豊かな海と持続可能な漁業を次の世代に引き継ぐものにしていきます。

2 基本理念

福井の海、河川、森林がもたらす豊かな恵みを次世代に繋ぐため、栽培漁業、水産資源の保護、環境保全の重要性を広く訴えるとともに、水産物をはじめとした福井の魅力を全国に発信します。

3 基本方針

（1）変化に強い持続可能な水産業へステップアップ

デジタル操業船日誌など DX を取り入れた新たな資源保護、環境変化に合わせた種苗放流、食害生物の除去や藻場保全の推進など、天然資源の持続的な利用を促進する取り組みを進めます。

（2）魅力あふれる漁村コミュニティづくり

漁業体験プログラムの開発や漁家民宿での地魚料理を通じた魚食普及などの海業を推進することにより、豊かな海のすばらしさを次の世代に繋いでいくための漁村コミュニティづくりを進めます。

（3）地魚の魅力発信と販売促進

「越前がに極」や「若狭ぐじ極」などのプレミアムブランドを核として、「ふくいの魚まるごとブランド化」を進め、福井の海の幸の魅力を県内外に発信することで「ふくいの魚」のファンづくりを推進します。

4　大会の概要

(1)名　　称　　第47回全国豊かな海づくり大会～幸極(さちきわ)まる　ふくい大会～

(2)主　　催　　豊かな海づくり大会推進委員会
第47回全国豊かな海づくり大会福井県実行委員会

(3)開催時期　令和10年秋頃(土曜日、日曜日の2日間)

(4)開催場所　式典行事:敦賀市民文化センター(敦賀市)
海上歓迎・放流行事:越前漁港(越前町)

(5)行事内容
① 式典行事
功績団体表彰、稚魚等のお手渡し、作品コンクール入賞者発表、大会決議等
② 海上歓迎・放流行事
福井県で漁獲される主要な魚種の稚魚等の放流、漁船による主な漁法の紹介
③ 関連行事
作品コンクール入賞作品の展示、栽培漁業の企画展示、特産品販売等

(6)大会テーマ等
公募により決定します。

(7)大会キャラクター
キャラクターは、福井県マスコットキャラクター「はぴりゅう」とし、
コスチュームは公募によりデザインを決定します。

資料３

第２号議案

第47回全国豊かな海づくり大会　開催地選定(案)について

１　開催地(案)

(1)式典行事会場:敦賀市民文化センター
(2)海上歓迎・放流行事会場:越前漁港

２　選定の経緯および理由

【経　緯】

・第1回準備委員会において、「開催候補地の選定基準」を決定し、準備委員会構成員に対し、本選定基準に沿った施設および開催意向について照会しました。
・開催意向のあった各市町の施設の現地確認や、意見交換を踏まえ、事務局で検討・整理した各行事の開催候補地(案)が、第2回準備委員会において承認されました。

【理　由】

(1)式典行事会場:敦賀市民文化センター

・福井県沿岸に位置する敦賀市内にあり、敦賀駅から約 2km、自動車で約 7 分と、アクセスが良好である。
・また、客席は 1,184 席を有する傾斜のある劇場タイプで、かつ十分な駐車スペースを確保できることから、式典会場として相応しい施設である。

(2)海上歓迎・放流行事会場:越前漁港

・式典行事会場の候補地の「敦賀市民文化センター」から約60km、自動車で約 70 分となっている。場所によって、防波堤により視界が遮られるが、放流台からは日本海が望める。
・また、放流行事を安全に行うための放流台を設置できる護岸や招待者スペースを十分に確保でき、かつ周辺海域が海上歓迎や漁法紹介を実施する場合でも十分な水域と水深を有することなどから、海上歓迎・放流行事会場として適地である。

参考１

第47回全国豊かな海づくり大会 開催候補地の選定基準

１ 共通事項

(1)宿泊施設、主要駅・主要道路からのアクセスが良好で、警備に支障がないこと。
(2)地震・津波対策(避難計画、ハザードマップ等)が整備されていること。
(3)大会を円滑に開催するため、各会場が近接し、短時間で移動できること。

２ 式典行事会場

項　目	内　容
施設 の規模	・1,000 人以上の招待者が収容可能であること。(客席に傾斜がある劇場タイプが望ましい) ・映像装置、音響装置が設置でき、式典を行う十分な広さのステージが確保可能であること。 ・招待者席とは別に、音楽隊席および TV 放送スペースの確保が可能であること。 ・10 室程度の控室が確保可能であること。
駐車場 の規模	・300 台以上の普通車かつ 35 台以上の大型バスの駐車が可能であること。 ・要人等と一般招待客の動線を区別できること。
交通 アクセス	・公道から会場入り口までのアプローチ道路が確保可能であること。 ・海上歓迎・放流行事会場との効率的な移動が確保できること。
その他	・金属探知機や荷物預かり所の設営が可能であること。

３ 海上歓迎・放流行事会場

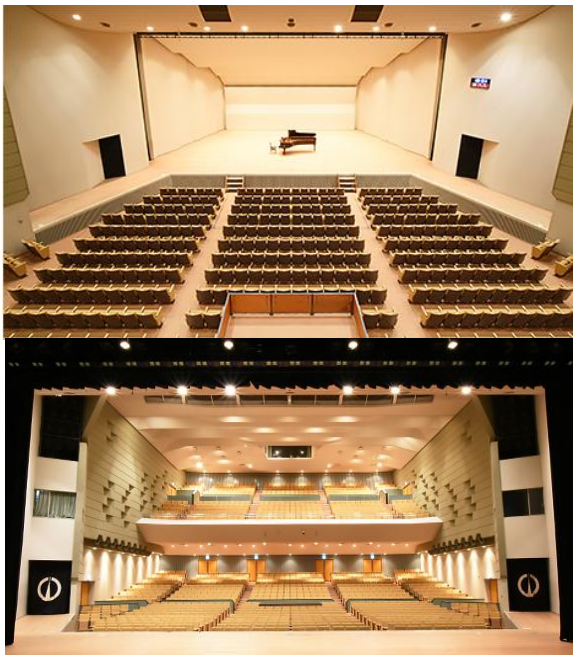
項　目	内　容
会場 の規模	・500 人以上の招待者が収容可能であること。式典行事出席者がそのまま移動して参加する場合には 1,500 人程度が収容可能であること。 ・海上歓迎に参加する漁船が集積しやすく、十分な水域と水深(3.2m 以上)が確保可能であること。 ・放流台が設置可能な十分なスペースが確保でき、安全に放流できる場所であること。 ・放流台から漁船パレードを十分に視認でき、パレードが円滑に実施できる十分なスペースがあること。
駐車場 の規模	・150 台以上の普通車かつ 20 台以上の大型バスの駐車が可能であること。 ・要人等と一般招待客の動線を区別できること。
交通 アクセス	・公道から会場入り口までのアプローチ道路が確保可能であること。 ・歩行者と車両の安全が確保できること。
その他	・金属探知機や荷物預かり所の設営が可能であること。 ・海辺の風景を生かした眺望や海の豊かさを実感できる眺望があること。

参考２

大会開催候補地各会場の概要

１　式典行事会場

敦賀市民文化センター（敦賀市）



所在地	敦賀市桜町７番１号
用　途	劇場
面　積	延床面積 5,312m^2
収　容 人数	１階 800 席　２階 384 席　合計 1,184 席
控室等	控室２室、楽屋３室、リハーサル室１室、練習室１室、和室１室、多目的室１室、小ホール
階　数	地上３階、地下１階
構　造	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
建　築 年　月	1977 年 11 月竣工（2019，4 ﾘﾆｭｰｱﾙ）
駐車場	普通車約 300 台、大型バス約 35 台駐車可能（隣接施設含む）
耐　震	新耐震基準建築物
その他	高速道路出入り口から近距離 敦賀駅から約 2km

２　海上歓迎・放流行事会場

越前漁港（越前町）



所在地	越前町道口
区　分	漁港
駐車場	12，000m^2
面積	29,000m^2
水深	約 7m
駐車場	普通車 150 台以上、大型バス 20 台
津　波 関　係	津波高（最大）5.1m 第一波到達時間（最短）2 分
その他	南条スマート IC から約32km

参考３

会場候補地位置図

● 式典会場（敦賀市民文化センター）

● 海上歓迎・放流会場（越前漁港）



資料４

第３号議案

令和8年度　事業計画(案)について

１　実行委員会運営事業:1，386千円

(1)実行委員会
・開催回数:2回(設立総会および第1回総会・第2回総会)
・内　　容:主要行事開催地の決定、事業計画の審議、
基本計画の策定

(2)幹事会(専門部会は必要に応じて設置、開催)
・開催回数:2～3回程度
・内　　容:基本計画素案の策定

２　企画運営・広報事業:4，914千円

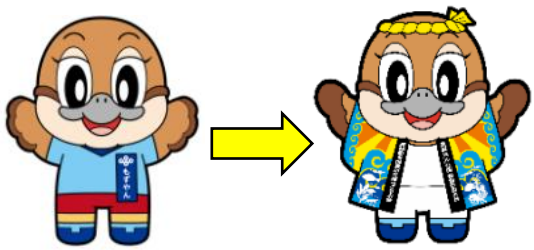
(1)大会テーマの募集・選考事業
「豊かな海」について簡潔に表現した覚えやすい標語・スローガンを全国から募集し、大会広報に活用します。

＜過去の例＞

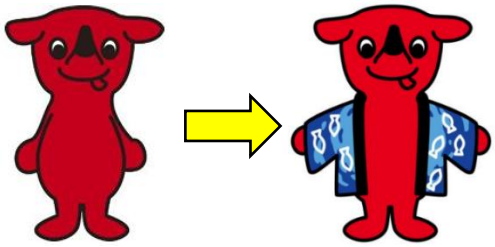
昭和61年　福井県　「ふるさとの　未来を拓く　海づくり」
令和　6年　大分県　「つなぐバトン　豊かな海を　次世代へ」
令和　7年　三重県　「受け継ごう　命あふれる　清い海」
令和　8年　大阪府　「響かせよう　豊かな海の　ハーモニー」
令和　9年　千葉県　「つくろうよ　命が謳う　明日の海」

(2)大会専用コスチュームの募集・選考事業
大会キャラクターである福井県のマスコットキャラクター「はぴりゅう」が着用する海づくり大会にちなんだコスチュームデザインを全国から募集し、大会広報に活用します。
※はぴりゅう以外のキャラクターや職員が着用することも想定

＜過去の例＞



R8　大阪府　もずやん
（大阪府提供）



R9 千葉県　チーバくん
（千葉県提供）

＜大会キャラクター＞

〇大会キャラクター：福井県マスコットキャラクター「はぴりゅう」



福井県マスコットキャラクター
はぴりゅう

【はぴりゅう経歴（県ホームページより）】

福井県マスコットキャラクター「はぴりゅう」は、 2018 年に開催された「福井しあわせ元気国体・障スポ」の PR キャラクターとして 2015 年に誕生し、県内各地で PR 活動に大活躍しました。

国体・障スポ後は、県民のみなさんのさまざまな活動を応援する「県民交流サポーター」として活動を再開しました。

（3）大会記念リレー放流開催事業

稚魚等の放流を通じ、大会の周知と機運醸成および県民の水産業・水産資源への理解を深めるため、市町および漁業協同組合等の協力のもと、小学生等による稚魚の放流を各地で実施します。

〇スケジュール

10 月中旬～12 月上旬

・敦賀市（マダイ）・坂井市（バフンウニ）・永平寺町（サクラマス）

（4）大会PR・情報発信事業

大会PR資料の作成、ノベルティグッズの制作、HPを活用した発信、各種イベント等への出展などによる情報発信を行います。

令和8年度　収支予算(案)について

自　令和8年10月13日
至　令和9年　3月31日

1. 収入の部

(単位:千円)

項目	予算額	摘要
1. 負担金	6, 300	福井県からの負担金
合計	6, 300	

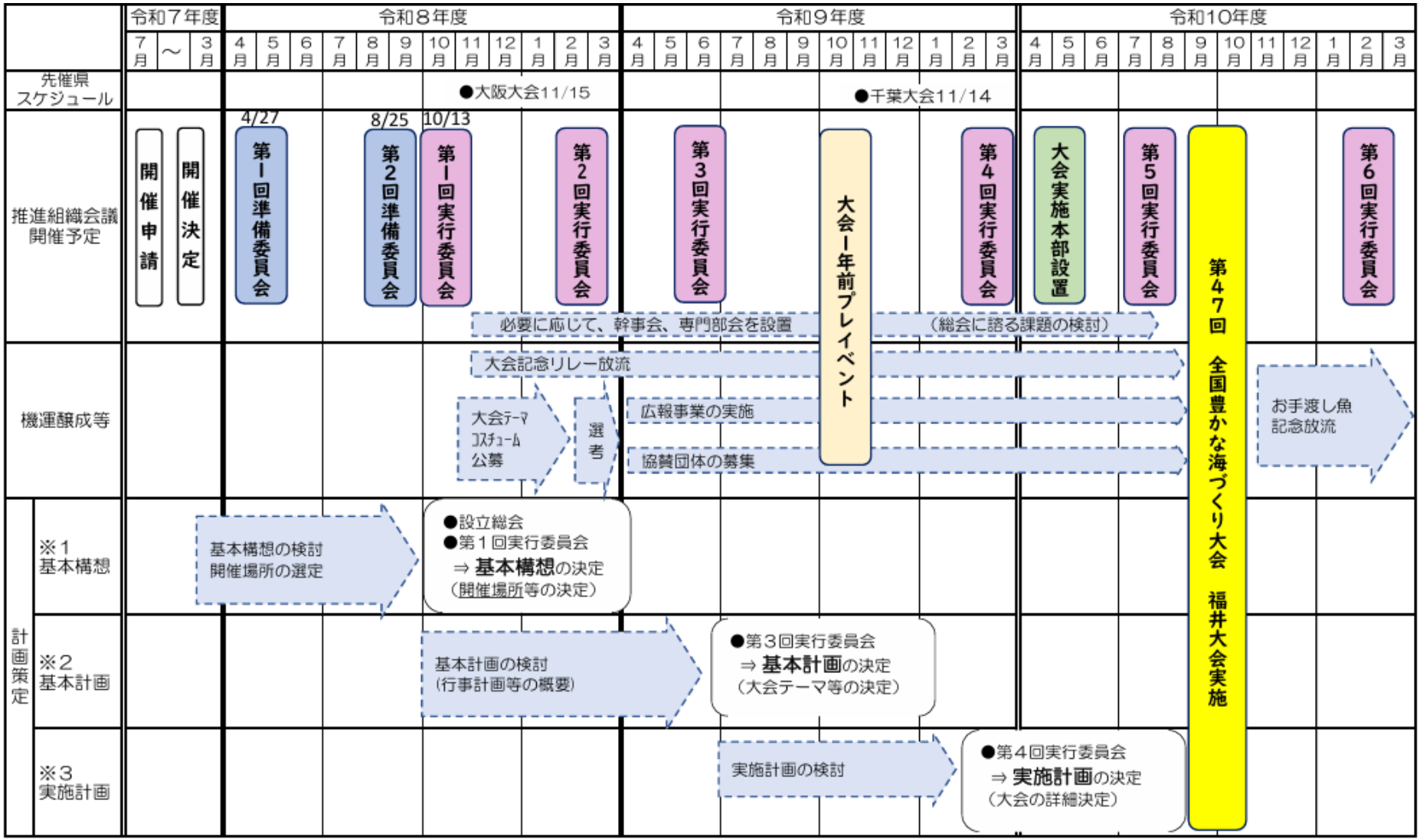
2. 支出の部

(単位:千円)

項目	予算額	摘要
1. 実行委員会運営費	1, 386	実行委員会・幹事会等開催にかかる費用
2. 企画運営・広報費	4, 914	大会テーマ等募集・選定 大会記念リレー放流開催 大会 PR・情報発信　等
合計	6, 300	

参考４

第４７回全国豊かな海づくり大会のスケジュール案



※１　基本構想：開催意義、基本理念、基本方針、開催場所など大会の大枠を定めるもの
※２　基本計画：式典行事、放流行事の会場配置、行事計画や大会の運営方針、広報計画などを盛り込んだ具体的計画
※３　実施計画：実施本部の組織体制や大会当日における各行事のタイムスケジュールなどを盛り込んだ詳細な計画